

# 第11回大会 盛会のうちに終了!

キリスト教礼拝音楽学会 第11回大会報告

## キリスト教礼拝音楽学会 第11回大会報告

赤井 励

青山学院大学 904 号室を主会場にした当学会の第 11 回大会・総会は、東日本大震災、原発事故の衝撃からまだ日が浅い 6 月 4 日に開催された。世相が騒然としていた点で精神的に試練であったと同時に、学会誌の印刷所も被災しており、関東では実際に余震が来ても不思議ではない状況の中での大会で、確かに参加者の記憶に残る大会となったことであった。青山学院大学側では当学会の那須輝彦理事の手際良いご準備があり、また役員各位のご尽力、そして好天にも恵まれて、全てのプログラムをつつがなく終えられたことは幸いであったと思う。佐々木しのお理事ほか被災地域から困難を克服して出席された会員もおられたことには本当に勇気を与えられた。被災地の一日も早い復興を心から願っている。

さて、本大会は当学会創立 10 周年が過ぎた節目にあたることから、発表全体にこの 10 年の学会の歴史総括的なアプローチが多かったことは、さらなる未来へ向けての展望を得る意味で至当であったと言えよう。金澤正剛会長による基調講演「キリスト教礼拝音楽学会の今後のビジョン」では、教会音楽の問題を超教派で集い共に研究していくことをポジティブに捉え、典礼、礼拝の姿も国によって多様であることの例として、ブダペストでの経験のほか、トスカナ地方でプロテスタントの讃美歌が歌われた例があることを実際に歌って示された。その逆の例も含めて礼拝音楽には多様な姿があるということを知りやすくお話下さった。伊東辰彦理事は学会誌編集の立場から「10 年を振り返って - 学会誌について -」として、当学会設立までの歩みのほか、ドイツのヘルダー市での体験談を語られ、『礼拝音楽研究』誌に掲載された論文・記事の全体傾向を分析、プロテスタント、カトリックが多数ではあるが、アジアを拠点にしながら普遍的、客観的な姿勢が貫かれており、超教派での研究姿勢のメリットが実現され

ていると評価された。また書評については 12 冊分が発表されたが、特に 2007 年度以降、当学会を通しての研究成果がまとまってきた観があるとのこと。休憩の後、手代木俊一副会長が「10 年を振り返って - 書誌について -」として発表された。手代木氏がこのところ讃美歌・聖歌の書誌製作に忙殺されていたことは知られているが、仕事量が多くなってしまふ原因は書誌の範囲の広さにある。例えば配布資料のキーワード別に見ても、讃美歌集、聖歌集のほか作曲・作詞関連やオルガン、教会暦、典礼、歌い方、弾き方のハウツーもの、地域別、日本語、関係人物研究にまで及び、ご紹介のあった最新出版分も含めると終りが見えない難事であると感じた。次に私（赤井）が「楽器から見た日本キリスト教史」という大きな演題をいただいたので、日本の教会オルガンは地震と戦災で大きな被害を受けてきたこと、また過去の対談に見られた教会の楽器に関する諸問題の紹介のほか、青山学院所蔵のリードオルガンのこと、戦前の修身の教科書に載っているリードオルガンの挿絵に十字架のすかし彫りがあること、蘆花恒春園展示の西川製リードオルガンの経緯、中村証二会員ほか四国の有志が行なった地域研究（四国の教会が所有する楽器の調査結果）などを交えながら雑駁なお話をさせていただいた。

休憩をはさんで質疑応答時間があり、新垣壬敏理事、塩谷栄二理事ほか数名からパイプオルガンの設置位置についてのお話や、楽器選択に関する諸問題が提起された。昼食の後、総会となったが、これは議事録に明らかであるので省略。午後の部は 14 時よりシンポジウムとなり、まず植木紀夫理事より「讃美歌集作成の現状と問題点」～福音讃美歌協会の取り組みから～として『教会福音讃美歌』（発表時点で 2011 年 12 月発行予定）試作版を例にとってお話された。創作讃美歌ではテナーとバスが 1 オクターブ以上開く譜の採用もある

こと、福音系讃美歌を『讃美歌 21』より多く収載などの特徴もあることなど紹介された。次に新垣壬敏理事による「日本語聖歌とグレゴリオ聖歌との関係」についてのお話。第二バチカン公会議で各母国語の聖歌を歌うことが認められたが、グレゴリオ聖歌に慣れ親しんでいた氏には日本語聖歌部分（1963年版）はしっくりこなかった。新垣氏はまず朗読・語りの大切さを強調され、コラール様式とグレゴリオ聖歌様式を比較した上、モーラ言語とシラブル言語という問題の存在も提示され、自らは「グレゴリオ聖歌日本語様式」を提唱されている。次にエヴァルト・ヘンゼラー理事、大津磨由美会員による「第二バチカン公会議とラテン語ミサ曲」。ミサ曲で使用されるラテン語は話されてい

る言葉ではない。トリエント公会議（1545～1563年）では世俗的な内容を排除するよう指導した（1562年草案）。カトリック教会のこの伝統は1917年まで確実に続いていた。400年を経た1963年の第二バチカン公会議（典礼憲章）以降、この伝統は衰退・崩壊したと考えられる。レクイエム（鎮魂ミサ）等の形式は教会を離れて演奏会形式の中で生きている現状もある（ペンデレッキのルカ受難曲が一例）。日本でレクイエムは殆どが広島・長崎の原爆被災者に捧げられているとのこと。以後、ラテン語ミサなどについて活発なフリートークに入ったが、今は紙数が尽きたようである。以上、簡単に大会報告とさせていただきます。

（当学会理事）



★テーマ 讃美歌・聖歌の諸問題—キリスト教礼拝音楽学会の10年を振り返り、今後の展望を拓く—

★日時 2011年6月4日(土) 10:00-16:30

★会場 青山学院大学 9号館

★プログラム

10:00 - 10:05 会長開会挨拶  
 10:05 - 10:45 キリスト教礼拝音楽学会の今後のビジョン  
 10年を振り返って—学会誌について—  
 10:50 - 11:30 10年を振り返って—書誌について—  
 楽器から見た日本キリスト教史  
 11:40 - 12:00 質疑応答  
 12:00 - 12:30 総会  
 12:30 - 14:00 懇親会、自由行動  
 14:00 - 15:30 シンポジウム  
 讃美歌集作成の現状と問題点  
 日本語聖歌とグレゴリオ聖歌との関係  
 第二バチカン公会議とラテン語のミサ  
 15:45 - 16:30 フリートーク  
 16:30 会長閉会挨拶

総合司会 伊東辰彦  
 金澤正剛  
 金澤正剛  
 伊東辰彦  
 手代木俊一  
 赤井 励

植木紀夫  
 新垣壬敏  
 E.ヘンゼラー・大津磨由美  
 金澤正剛



## 『日本讃美歌・聖歌 研究書誌 2010』を刊行して

手代木俊一

会員の皆様にはこのニュースレターとともに『日本讃美歌・聖歌 研究書誌 2010』がお手元に届いていると思います。4、5年前の大会でこのような書誌の刊行、そして会員への配布が役員会で認められたことをご報告いたしました。やっと完成の運びとなりました。大変遅れてしまったことをお詫び申し上げます。

出来うれば宣教師来日から150年後の2009年、宣教師の中にはリードオルガンを家庭礼拝のために携えてきた宣教師もいて、キリスト教礼拝音楽150年でもある2009年版として2010年には出版したかったのですが、諸般の事情により今日に至ってしまいました。

書誌なので「前書」「後書」は特に必要ないと思っていましたが、学会誌編集委員の方からこのニュースレターにそれらにあたる部分を執筆するようにとの原稿依頼があったため今回執筆した次第です。

振り返ってみますと、映画等で構想10年とか申しますが、この書誌も構想と作成で11年かかってしまいました。1998年フェリス女学院大学を退職して、家庭の事情で福島県会津地方の喜多方に住むことになりました。毎日母の入院する病院に通い、ほぼ出来上がっていた『讃美歌・聖歌と日本の近代』（音楽之友社）の執筆と校正に時間を費やし、1999年11月に出版いたしました。しばらくぼんやりしていましたが、さて次に何をと考えたとき、50歳も過ぎ、少し衰えを感じ始めていたので、体力勝負の仕事は今のうちにしておこうを考えました。そこで労多くして、人がやりたがらない讃美歌・聖歌の書誌を作成することに考えが至りました。2000年から少しずつ時間をとって作成を始めました。

その間に『アメリカによる東アジア伝道書誌』（東京女子大学 2004年）の作成依頼があったり、『日本プロテスタント讃美歌・聖歌史事典 明治篇』（港の人 2008年）の出版、『永遠のふるさと 童謡・唱歌から讃美歌へ（DVD）』（ライフ・クリエイション=いのちのことは社 2010年）を監修し、出演までしてしまいました。これらに集中している間はまったく手をつけられませんでした。そしてこれらのこと以外でもある期間を置いて、また書誌作成を始めると、今までしてきたことをすっかり忘れてしまい、記載の仕方を変えてしまったこともありました。この為やり直しということが何度も起こり、構想（方針）もしなおしということになりました。何度書き換えたか判らず、その度に反省を繰り返し、自分に嫌気まで感じる始末でした。かなりのデータ数になっていて今さら止める訳にもいかず、時間はますます過ぎてゆきます。

あるとき2009年がキリスト教の節目なので、この年を原稿完成の目標に設定いたしました。今度は身体をいためてしまい、机に座っていられる時間に限りがでてしまいました。当然職場優先になり、2010年には刊行できなくなりました。2011年に刊行できなければ、また1年収録範囲が広がり、いつまでたっても完成できません。データも増える一方なので、2011年の1月から5月まで他のことはせず、これだけに集中して作成したのがこの書誌です。しかし、年内刊行のために間に合わせたという感はいなめません。

上記の事情から間違いも多いと思います。また収録すべきデータの漏れもあると思います。お気付きの点等ご連絡いただければ幸いです。

この書誌の内容に関しては、キーワードには力を入れたつもりです。『日本プロテスタント讃美歌・聖歌史事典』は明治編ばかりでなく、大正・昭和・平成編もいずれは刊行する予定なので自分のこれからの為でもありました。プロテスタントだけということも考えましたが、新垣壬敏氏のようにカトリックだけにとどまらず、音韻についても述べている方もあり、すべての教派を網羅することにいたしました。

調べてゆくとアグネス・チャン氏がカトリックであることが判ったり、文語文法を讃美歌で教えている教科書があったり、様々なことを知る機会となりました。戦中のデータはどうすべきか悩みました。わたしだけが持っているデータが多くふせて置くことも可能でしたが、事実は事実として知りうるかぎりを掲載いたしました。こんな方も関わっていたのかと、その後の発言からは想像もつかない人物の名前も出てまいります。

これからは、1年ごとに補遺を作成、訂正表も作成する予定です。また5年後位には改訂増補版を出版することができればと考えています。しかしその頃にはかなりいい歳になっていますので、どなたかが引き継いで下さればとも思います。立候補する方はおられないでしょうか。

なお、この『日本讃美歌・聖歌研究書誌 2010年版』は『礼拝音楽研究』別冊としてキリスト教礼拝音楽学会が出版したものです。皆様にお送りした以外に学会分としてまだ約100冊確保しております。これらが販売されれば学会の財政は潤いますので、是非会員の皆様には、関連の機関（学校・教会等）にその機関がこの書誌を購入するべくはたらきかけていただければと思います。よろしくご願ひ申し上げます。

## ★2011年度総会報告

- 第1号議案 2010年度事業報告および  
2010年度収支決算の件
- 第2号議案 2011年度事業計画および  
2011年度収支予算案の件
- 第1号議案、第2号議案いずれも、挙手による採決により、賛成多数で承認。

## ★役員会報告

- ①日 時：2011年5月22日(日) 14:00-15:00  
場 所：イタリアン・オットー (池袋)  
出席者：赤井、新垣、伊東、金澤、佐々木、塩谷、手代木、那須  
議 題：学会誌、ニュースレター、大会の詳細な打ち合わせ
- ②日 時：2011年7月10日(日) 14:00-15:30  
場 所：明治学院150年史編集室  
出席者：新垣、金澤、塩谷、手代木  
議 題：第11回大会報告  
第12回大会のテーマ等  
ニュースレター、学会誌
- ③日 時：2011年10月2日(日) 13:30-14:30  
場 所：イタリアン・オットー (池袋)  
出席者：赤井、伊東、金澤、佐々木、塩谷、手代木  
議 題：第11回大会報告  
第12回大会案  
日時 2012年5月26日(土)  
会場 西南学院大学チャペル(福岡)  
テーマ 礼拝におけるオルガンと合唱  
—実践的アプローチ  
手代木氏作成の『日本讃美歌・聖歌研究書誌』について、手代木氏と学会の間で契約書を交わした。

「発行部数を500とし、キリスト教礼拝音楽学会が200部、手代木氏が300部所有するものとする。費用はキリスト教礼拝音楽学会が100部分、手代木氏が400部分負担するものとする。すなわち手代木氏から100部寄贈を意味し、その収入は学会の収益とする。販売価格は3,500円とする。」

## ★学会誌発行予定

### 第11号 学会誌……4月半ば刊行予定

- 内容・巻頭言……佐々木しのぶ
- ・論文……手代木俊一、E.ヘンゼラー
  - ・特別寄稿……山本有紀

- ・新刊紹介……金澤正剛  
『日本讃美歌・聖歌研究書誌』の紹介
- ・新刊紹介……佐々木悠 『教会音楽百科事典』  
(Enzyklopadie der Kirchenmusik Laaber Verlag)
- ・第11回大会プログラム・報告……伊東辰彦

## ★第12回大会予定

2012年5月26日(土)  
西南学院大学チャペル(福岡)  
テーマ 「礼拝におけるオルガンと合唱」  
—実践的アプローチ—

## ★会員出版物の案内・募集

※編集委員会より  
会員の最新刊行物を掲載し、皆様にご紹介したいと思います。  
編集委員(手代木、佐々木宛)までお知らせください。

## ★会費納入のお願い

会の運営に対して、いつも支援をいただき感謝申し上げます。2011年度の会費をまだ納入されていない方は、ぜひ下記の口座にお振込みくださいますようお願い申し上げます。なお、今年度の会費を完納された方には、当学会誌第10号別冊『日本讃美歌・聖歌研究書誌』手代木俊一著を無料でお送りしております。

キリスト教礼拝音楽学会東北地区部会  
郵便振替口座 02240-3-46335

入会金：3,000円(入会時のみ)  
年会費：正会員 6,000円  
準会員 3,000円  
賛助会員 20,000円

- 振込用紙には\*\_\_\_\_年度／正・準・賛助会員／会費\_\_\_\_を必ず明記の上、ご送金ください。
- 住所変更等も、ぜひお知らせください。
- 会費納入についてご不明なことがございましたら、下記にご連絡をお願い申し上げます。

会計担当 佐々木しのぶ  
〒980-0023 仙台市青葉区北目町6-6-1101  
TEL/FAX022-262-6565  
Email:sshinobuorg@ybb.ne.jp